

質問紙調査から見える

児童・生徒の姿

「子どもたちのよさを認める等、大人の適切な働きかけが重要！」

「自分には、よいところがあると思いますか」(表3) という項目について、小学校では肯定的な回答割合

	小学校6年生				中学校3年生			
	国	県	大山町	全国との差	国	県	大山町	全国との差
自分には、よいところがあると思う	81.2	81.7	80.7	-0.5	74.1	74.7	68.7	-5.4
人が困っているときは進んで助けている	87.9	88.2	83.3	-4.6	85.9	86.1	82.7	-3.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	97.1	97.3	98.3	1.2	95.1	95.6	96.2	1.1

	小学校6年生				中学校3年生			
	国	県	大山町	全国との差	国	県	大山町	全国との差
今住んでいる地域の行事に参加している	68.0	81.3	75.4	7.4	50.6	58.6	60.9	10.3
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	54.5	51.5	53.5	-1.0	39.4	40.8	34.6	-4.8

が全国と比較するとやや低い結果となつています。また、中学校では、全国平均よりも5%以上低い結果となつています。「人が困っているときは進んで助けている」(表3) という項目については小学校、中学校とも全国平均よりもやや低い結果です。

「子どものよいところをほめる」「子どもに努力することの大切さを伝える」「子どもに最後までやりぬくことの大切さを伝える」「地域社会などでのボランティア活動等に参加するよう子どもに促す」等は子どもの自尊感情を高める大切な取り組みであり、周囲の大人たちが生き方の良き手本となることが重要だと言われています。

また、「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」(表3) という項目は、全国平均よりもやや高い結果となつていますが、考え方を変えると、約2%〜4%の子どもたちが、「理由があれば、いじめてもよい」と考えているととらえることができます。小・中学校で教科化になった「道徳」をはじめ、

が全国と比較するとやや低い結果となつています。また、中学校では、全国平均よりも5%以上低い結果となつています。「人が困っているときは進んで助けている」(表3) という項目については小学校、中学校とも全国平均よりもやや低い結果です。

学校や家庭の中のいろいろな機会をとらえながら、「いじめは絶対にしてはならない」「自分も周りの人も大切にしよう」という気持ちを育てていかなければならないと考えます。

【ふるさと教育を通して、自分自身にできること】

「今住んでいる地域の行事に参加している」(表4) については、全国平均と比較すると良好な結果となつています。一方で「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることとなる」については、やや低い結果となつています。

大山町の小・中学校では、「音読ボランティア」「米作り・野菜作り」「スキー教室」「職場体験学習」「赤ちゃんふれあい会」など、地域の方々の協力を得ながら、学習に取り組んでいます。各学校がふるさと教育を推進し、地域の方々のつながりを大切にした取り組みを行っていますが、与えられた活動に取り組むだけでなく、自分で何ができるのか、どのように取り組めば良いのかなど、自主的に



課題に関わる力を育成することが大切です。

【苗半作の教育】ご存知ですか？

苗半作とは、「良い稲を育てるためには、良い苗を育てる過程が最も重要で、苗の出来、不出来によって稲の作柄の半分が決まる」という意味です。

子どもたちには、必要なきに必要教育やしつけをすることが大切で、時を逃せば効果が無いだけでなく、後の努力では補いきれないものがたくさんあります。そのためには、小さな変化を見逃さないよう、子どもたちを毎日よく見ておくこと、また、学校だけでなく、家庭を学びの環境にすることがとても大切です。子どもたちの成長過程を大切に、学校と家庭、地域が努力して、子どもたちの将来を実り多いものにしていきましょう。